

第2回映画産業の海外展開に関する検討会議 議事要旨

1. 開催日時 : 平成29年2月21日(火)午後3時~4時10分
2. 開催場所 : 内閣総理大臣官邸3階南会議室
3. 概要 :

(1) 冒頭、萩生田光一内閣官房副長官より、以下の挨拶があった。

「皆様ご苦勞様です。委員並びに関係者の皆様におかれましては、お忙しい中、本会議にご出席いただきまして誠に有り難うございます。

昨年は、日本の映画界にとりましては追い風が吹いてとても元気な1年だったと思います。映画館への入場者数は42年ぶりに1億8千万人台を回復し、また興行収入は過去最高の2,355億円を記録したということでございます。その要因として、「君の名は。」、「シン・ゴジラ」等、大ヒット作品が続いたことでもあります。公開された邦画の作品数は、過去最高に迫る600の大台に乗ったということも貢献しているものと考えられます。

私たち官邸としましては、引き続き、元気で、魅力に満ちた日本の映画を、世界の皆様にお届けをしたい、そのための方策を皆さんと一緒に考えていきたいと考えております。

そこで、本日は、国内での興行収入が240億円、2月5日時点ですから、更に増えているのかもしれませんが、歴史的なヒットとなり、中国、香港、台湾、タイでも日本映画として大成功をおさめた「君の名は。」について、関係者からヒアリングを行い、我々としても成功の要因を探っていきたいと思っております。

それに加え、映画をはじめとする、我が国のコンテンツをアジア全体にお届けをしていくべく、アジアでコンテンツ・ビジネスを積極的に展開している事業者からもヒアリングを行います。

これらを参考としつつ、次回検討会議では、来年度の具体的なとり進め方につきまして議論していきたいと考えております。関係者の皆様方には、それぞれのご経験、お立場から忌憚のない御意見を賜りたいと思っておりますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。」

(2) その後、一般社団法人日本映画製作者連盟から昨年の国内興行収入について報告があったほか、東宝株式会社、株式会社アクセスブライト及び伊藤

忠商事株式会社から海外におけるコンテンツ・ビジネスの現状に関する報告があり、概略以下のような意見が交わされた。

ア 我が国のコンテンツを海外で展開するに当たっては、以下のような対策が必要である。

- (ア) 信頼できる現地パートナーを探すこと。
- (イ) 我が国での映画の公開日から間を置かずに海外で公開していくこと。
- (ウ) コンテンツから派生する周辺ビジネスをも視野に入れていくこと。
- (エ) 効果的な海賊版対策を講じていくこと。

イ 我が国では、老若男女を問わず、映画を鑑賞しているが、アジアでは、若年層が映画を観賞する傾向にあり、将来的には、幅広い年齢層で映画への関心が広がっていく潜在的な可能性がある。

(3) 最後に、萩生田副長官より、委員の皆様からの活発なご意見に感謝したい旨挨拶があり、閉会した。

(以上)